

第3回 国際臨床ウイルス性肝炎学会

平成 11 年 12 月 12 日～16 日 ハワイ マウイ島

新漢方処方「養生片仔癩」の肝臓病患者における 血中 ALT(GPT)および AST(GOT)に対する効果

○謝心範¹⁾、原田雅義²⁾、矢内原昇³⁾

1) 漢方養生研究所、2) 原田病院、3) 矢内原研究所

[背景]

新漢方処方「養生片仔癩」は田七人參、田七杜仲精、黄精、甘草を成分とし、既に、起炎剤としてD-グルコサミンを用いたラットの実験の肝障害モデルにおいて、血中ALT(GPT)とAST(GOT)を減少させることを確認している。今回の研究では更にC型ウイルス性肝炎を含む肝臓病患者に対する効果を調べた。

[方法]

医療機関医師の指導のもと、肝臓病患者に本品 1gを 1日 3回毎食後に経口投与した。

[結果と結論]

C型肝炎の患者 4名を含む 7例の「養生片仔癩」を使用した肝臓病患者において、使用開始後 10日でALT(GPT)とAST(GOT)の数値が著しく減少した。C型肝炎の 4名の患者において平均してALT(GPT)が 21%、AST(GOT)が 72%に減少していた。これらの結果より、養生片仔癩は様々な種類の肝臓病患者において、増加した血中ALT(GPT)とAST(GOT)を明らかに減少させることが判明した。